

母性看護学実習

実習要項

母性看護学実習

I 実習目的

母性看護の対象を理解し、女性の健康の促進へ向けた看護の役割について学ぶ

II 実習目標

- 1 対象の生理的变化をふまえ、健康促進へ向けた看護について考える
- 2 母性看護の対象に向けた、地域における看護の役割について考える

III 評価規準（めざす姿）

- 1 対象者の身体・心理・社会的な健康状態を表現する
- 2 対象者に必要な看護を根拠に基づいて実践する
- 3 生命の尊厳について自己の考えをもち、対象者の考えを尊重して関わる
- 4 女性が地域で安心して暮らしていくための母性看護の役割を表現する

IV 単位と時間数及び実習場所

2単位 90時間

実習内容	実習場所	実習時間	実習時期
病院実習	静岡市立清水病院 (3階病棟 LDR 新生児室 助産師外来)	63時間	3年
外来実習	オハナクリニック木の下町	9時間	
助産所実習	助産所 (くさの助産院、たまがわ助産院、渡辺助産院)	9時間	
地域女性実習	静岡市女性会館	9時間	
	計	90時間	

V 学習内容

学習活動	実習場所	実習内容	評価規準	評価資料
母性看護の対象について理解する	清水病院 3階	<p>◆ライフサイクル各期にある女性の特徴と健康状態を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 常在・病的条件の情報収集 2) 観察とアセスメント <p>◆妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の各期の生理的变化について理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊娠経過の情報収集 2) 分娩進行の観察と評価（分娩監視装置の装着） 3) 分娩経過の観察 <ul style="list-style-type: none"> ・分娩の3要素、3要素と分娩経過との関連性、陣痛の観察、産婦の全身状態の観察、児心音の観察、食事や水分摂取と排泄の状況、休息状況清潔の状況 4) 家族の心理、社会、経済的な様子 	対象者の身体・心理・社会的な健康状態を表現している	母性看護学実習記録 I-V ミーティング、カンファレンスの発言、面接

		<p>5) 胎盤娩出状況の観察、胎盤の観察と計測、子宮収縮状態の観察</p> <p>6) 出生直後の新生児の生理的特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子宮外生活適応過程、生理的変化、健康状態、発育状態の観察 <p>7) 褥婦の観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全身状態、心理状態 ・子宮復古の観察（子宮の状態、悪露、後陣痛） ・乳房の変化、乳汁分泌状態の観察、授乳の様子 ・食事、睡眠、清潔、排泄、活動 		
	新生児室	<p>◆新生児期の生理的特徴と生理的変化を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 出生経過の情報収集 2) 全身状態、生理的体重減少、黄疸、原始反射の観察、成熟徴候の観察、排泄状態、哺乳状態 3) バイタルサインの測定と身体計測 4) 母子相互作用 		
	外来	<p>◆妊婦健康診査の見学を通し、妊娠各期の生理的変化と胎児の状態を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊婦の健康状態と胎児の発育状況 <p>◆助産師による診察、指導の見学を通し、妊婦・褥婦の生理的変化と胎児・新生児の状態を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊婦・褥婦の健康状態と胎児・新生児の発育状況 2) エジンバラ <p>◆女性特有の健康問題の理解をする</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 婦人科外来を訪れる患者の症状・検査・治療 <p>◆地域の診療所を訪れる方の特徴を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 診療所を訪れる患者の症状・検査・治療 		
	助産所	<p>◆助産所を訪れる方の特徴を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊婦健康診査、乳児健康診査、新生児訪問、子育てサロン等に参加する方の様子 		
	女性会館	<p>◆女性会館を訪問し以下の内容を学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 女性会館を訪れる方、電話相談をする人の特徴 2) 女性の身体、心理、社会的な様子 3) 女性と家族またはパートナーの抱える問題が、周囲に与える影響や社会生活に及ぼす影響を知る 		
母性看護の対象者に必要な看護援助を実践する	清水病院 3階	<p>◆女性生殖器に疾患のある女性に必要な看護を理解し、指導のもと実践する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者のニーズに合わせた日常生活援助と看護 2) 手術前・後の観察と看護 3) 対象者に必要な保健指導（退院後の日常生活、性生活、異常時の対応） 4) 抗がん剤療法の実際を知る <p>◆妊娠期に必要な看護を理解し、指導のもと実践する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊婦のセルフケア不足に対する援助（休息、食事、排泄、清潔） 2) 腹囲・子宮底の測定、分娩監視装置の装着 3) 対象者に必要な保健指導（切迫早産、妊娠高血圧 	対象者に必要な看護を根拠に基づいて実践する	母性看護学 実習記録Ⅰ-Ⅲ 実習状況

		<p>症、妊娠糖尿病、食事指導)</p> <p>◆分娩期に必要な看護を理解し、指導のもと実践する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 分娩第Ⅰ期の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・陣痛発作時の看護（補助動作としてマッサージ、圧迫法、呼吸法、弛緩法） ・安楽な体位、姿勢の工夫、睡眠と休息の工夫、食事と水分摂取の工夫 2) 分娩第Ⅱ期の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・産婦の準備（安全な移動、外陰部の消毒） ・陣痛に合わせた呼吸法、努責指導 3) 分娩第Ⅲ期の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・排泄の援助、清潔の援助、家族への配慮 4) 分娩第Ⅳ期の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・子宮復古の援助、母子対面時の看護 5) 帝王切開術を受ける産婦の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・術前のオリエンテーション ・術後合併症の予防の準備と観察 ・母子分離状態に対する看護 <p>◆産褥期に必要な看護を理解し、指導のもと実践する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 産婦のセルフケア不足に対する援助（休息、食事、排泄、清潔） 2) 子宮復古促進の援助、産褥体操 3) 乳汁分泌促進のための援助、乳房管理 4) 児との関係確立の援助（授乳介助、児への関わり） 5) 育児にかかわる看護 6) 産婦を取り巻くサポート態勢への看護 		
	新生児室	<p>◆新生児期に必要な看護を理解し、指導のもと実践する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 育児技術の実践、指導の見学 2) 安全な抱き方・あやし方 3) 授乳の援助・ミルクの飲ませ方・排気の方法 4) 清拭・沐浴、衣服の着脱・おむつ交換 		
	外来	<p>◆産科外来における必要な看護（妊娠・産褥）を知る</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊婦健康診査の診察の介助・保健指導の見学 2) 助産師相談室での指導見学 <p>◆母親学級</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 母親学級に訪れる対象の様子 <p>◆婦人科外来における必要な看護を知る</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 診察の介助・日常生活指導の見学 		
看護専門職者としての倫理観をもつ	各実習場所共通	<p>◆生命の誕生について考える</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊娠、出産、育児に対する対象の思い 2) 生命の誕生・命を育てることの意味 3) 安全で快適な妊娠、出産、育児について <p>◆生命倫理について考える</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 多様な性 2) 不妊治療 3) 女性生殖器に疾患のある患者と家族の思い 	生命の尊厳について自己の考えをもち、対象者の考えを尊重して関	母性看護学実習記録 I-V 実習状況 ミーティング、カンファレンスの発言、面接

		4) 生涯にわたる母性への支援 ◆リプロダクティブヘルス/ライツについて考える 1) 生涯にわたる女性の健康支援 2) 女性の自己決定権	わる	
母性看護の役割を理解する	清水病院 3階	◆女性の退院後の生活支援の実際を知る 1) 退院後の療養に対する対象の身体・心理・社会的変化と養育に必要な支援 2) きょうだいや家族に対する家族関係再構築への看護 3) 育児不安、職場復帰への支援	女性が地域で安心して暮らしていくための、母性看護の役割を表現している	最終レポート 実習状況 ミーティング、カンファレンスの発言、面接
	新生児室	◆育児に必要な支援の実際を知る 1) 退院後の生活に向けた育児支援		
	外来	◆外来受診の意義と目的 1) 妊婦健康診査、産後健診 2) 婦人科受診・検診 3) 各期に応じた保健指導 ◆母親学級（集団指導の実際） 1) 母親学級での指導 ◆地域における診療所の役割を考える 1) 診療所の機能・役割・診療の実際		
	助産所	◆地域における助産所の役割を考える 1) 助産所の機能・役割・活動の実際 2) 妊婦健康診査の方法の理解 3) 新生児訪問、子育てサロンの参加 4) 助産師の対象への関わり方 5) 周産期における看護の役割		
	女性会館	◆地域における女性会館の役割を考える 1) 女性会館の機能・役割・活動の実際 2) 多職種との連携 3) 女性の健康を支える看護の役割		

VI 実習方法

1 外来実習（2日間）

1) 1日目（9時間×1日間） 病院の助産師外来・相談室 母親学級

時間	場所	ねらい	学生の動き
8:30	清水病院 助産師外来	妊娠経過を支える外来看護の役割について考える	外来の日程に応じ助産師外来か助産師相談室で実習する ◆前日までに担当助産師に挨拶をして、母子の来院時間と当日の待ち合わせ場所や実習内容を確認する 挨拶ができなかった場合は当日の朝病棟で確認をする 実習目標を発表する 助産師の指導のもと以下の体験をする <助産師外来>午前のみ ・腹囲、子宮底の測定、レオポルドの触診、児心音の聴取、ノンストレステストの実施、超音波検査の見学、内診の介助、妊婦の生活指導の見学
休憩			

13:00	2階 助産師相 談室		<助産師相談室>午後のみ ・2週間健診 1か月健診の見学 ・子宮底の測定、対象に必要な保健指導の実施
15:00	清水病院 3階		◆学生カンファレンス（病棟実習の学生とともに） 病院の外来で体験したことは、後日情報共有する
16:15			・1日の実習の振り返り

母親学級

時間	場所	ねらい	学生の動き
13:00	清水病院 3階	母親学級に参加し、妊婦集団指導の実際を理解する	実習期間中に母親学級が開催される場合は参加する ◆母親学級の準備 ・前日までに担当助産師に挨拶し、集合時間を確認する ・当日担当助産師の指導のもと物品の準備 ・参加者の誘導や受け付けの対応
13:30	清水病院 研修棟		◆母親学級に参加 ・集団指導の見学、グループディスカッションへの参加
15:30	3A病棟		・担当助産師の指導のもと会場の片付け ◆学生カンファレンス（病棟にて）
16:15			・1日の実習の振り返り

2) 2日目（9時間×1日間）診療所の産婦人科外来・アロハ外来・各種教室

時間	場所	ねらい	学生の動き
8:30	オハナク リニック	妊娠経過を支える外来看護の役割について考える	診療所の日程に応じて実習をする ◆オリエンテーション後、清掃に参加
9:00	1階外来 ブース(1 診か2 診)	女性生殖器に障害のある人への外来看護の役割について考える	◆担当看護師（1診か2診）に挨拶し実習目標を発表する ・看護師の指導のもと診察の介助を通して以下の体験をする <産科・アロハ（助産師）外来> ・外来実習1日目に準ずる <婦人科外来> ・初診時の診察の見学と介助、外来カルテより情報収集 子宮、卵巣に障害のある人の診察の見学と介助、 不妊症の検査や診察の見学、日常生活指導の見学
休憩	1階アロ ハ（助産 師）外来 ブース	地域における産婦人科外来の役割について考える	・了承の得られた対象者を1名受け持ち、外来カルテから情報収集をした上で、待合ブースから診察終了まで対象者と行動を共にする <各種教室> ・実習日が教室開催日であれば、指導者に教室参加を伝え、待機場所、動き方を開催時間までに確認する
15:00	各種教室 スタジオ		◆学生カンファレンス（指導者と学生） ・診療所で体験したことは、後日学内にて情報共有する
16:15	学生控室		・1日の実習の振り返り

<服装について>

私服で登校し、控室でユニフォームに更衣 靴は体育館シューズ

髪は束ねる（おだんごでなくて可、マツエク、香水禁止）、名札、消毒、マスク

<持ち物>

事前学習資料・テキスト・バインダー・昼食（ごみは持ち帰る）

<記録について>

- ① 母性看護学実習記録Ⅲを記入する
- ② 記録物は、個人の実習ファイルに綴じ込み、翌日実習開始前に3階病棟の所定の場所に置く

2 病院実習 (6日間)

1) 1日目 オリエンテーション (9時間×1日間)

時間	場所	ねらい	学生の動き
8:30	清水病院 3階	実習場所の特徴と日課を知り、実習方法についてイメージする 婦人科患者、妊産褥婦の入院中の生活の理解 診察介助の方法の理解	<実習オリエンテーション> ◆病院オリエンテーション ・実習目的、目標、実習場所、方法の確認 ・病棟の施設設備、病棟の日課について ・婦人科患者、妊産褥婦の1日の流れ(婦人科手術、経膈分娩、帝王切開術)を知る ・内診台の昇降介助方法、学生同士で患者と看護師役になり声かけや方法の確認 ・観察室でレオポルドの触診、モニタリングの方法の確認、安楽な体位の工夫方法 ・分娩台に乗り、努責や産婦への誘導方法の体験
休憩	新生児室	児心音の聴取、モニタリング方法、分娩時の努責の誘導方法の理解 新生児の生活と必要な援助技術理解と褥婦の退院後の生活の理解	◆新生児室のオリエンテーション ・新生児室の入退出方法(感染予防対策) ・新生児の抱き方、おむつの替え方、バイタルサインの測定方法、沐浴方法の確認 身体計測の実施
15:00	助産師外来・相談室	外来の特徴を知り、実習方法についてイメージする	◆助産師外来オリエンテーション ・診察の流れ、診察の方法、検査の介助方法、外来カルテの見かた、診察機器の説明を受ける
16:15	カンファレンスルーム		◆学生カンファレンス テーマ:「オリエンテーションを通して、感じたこと考えたこと」

2) 2~6日目 (9時間×4日間)

(1) 女性生殖器に疾患を抱えた女性の看護実習

時間	場所	ねらい	学生の動き
8:30	清水病院 3階	疾患と経過の理解と対象に合わせた具体的な看護実践の理解	◆受けもち女性の情報収集と看護の実践 ・性器出血の有無、帯下の有無、腹部腫瘍、腹部膨満、腹痛、疼痛の観察 ・膣鏡診・内診、細胞診、内視鏡検査、超音波断層法、CT、MRI、PET、骨シンチ、遺伝子診断の観察 ・手術前・後の観察と看護 ・化学療法、放射線療法、ホルモン療法の理解と副作用(排尿・排便障害、リンパ浮腫)の観察と看護 ・疼痛管理と看護 ・女性生殖器に疾患を抱えた女性の性やセクシュアリティへの配慮と精神的支援 ・対象者のニーズに合わせた日常生活援助と看護 ・対象者に必要な保健指導(退院後の日常生活、性生活、異常時の対応) ・家族への看護
休憩			

15:00	カンファレンスルーム		◆学生カンファレンス テーマ：当日決定する
16:15			・1日の実習の振り返り

(2) 妊婦の看護実習

時間	場所	ねらい	学生の動き
8:30	清水病院 3階	妊娠経過の理解と対象に合わせた具体的な看護実践の理解 重症妊娠悪阻、切迫流 早産の看護の理解	◆受けもち妊婦の情報収集と看護の実践 ・子宮収縮の頻度と程度の観察(触診)、出血の有無、破水の有無、胎動の有無の観察 ・分娩監視装置の装着とモニタリングの理解 担当助産師や教員とノンストレステストの評価 ・レオポルドの触診をし腹囲・子宮底の測定
休憩		ハイリスク妊婦の看護の理解	・使用薬剤の有無と副作用の観察、マイナートラブルと対処法の工夫 ・妊婦のセルフケア不足に対する援助 ・妊婦の状況に合わせて必要な指導と実践を行う(切迫早産・妊娠高血圧症・妊娠糖尿病・食事などの指導)
15:00	カンファレンスルーム		◆学生カンファレンス テーマ：当日決定する
16:15			・1日の実習の振り返り

(3) 産婦の看護実習 (LDR 室)

時間	場所	ねらい	学生の動き
8:30	清水病院 3階 LDR 室	産婦の看護について理解する ・分娩進行状況の理解	◆受けもち産婦の情報収集と看護の実践 ・陣痛の観察、児心音の観察、産婦の訴えの変化、破水の観察 ・分娩監視装置の装着とモニタリングの理解 ・分娩進行を担当助産師や看護教師と評価 ・陣痛発作時の看護、安楽な体位・姿勢の工夫、睡眠と休息、食事と水分摂取、排泄、清潔の援助家族への配慮について見学と実施 ・分娩時の呼吸法、努責指導、清潔の援助、安楽の工夫 ・児娩出後の胎盤娩出状況、子宮収縮状態の観察、母子対面場面の見学
休憩		・分娩経過に応じた看護の理解	※急遽立ち会い許可を頂けた学生は入室等のタイミングをスタッフと相談する
15:00	カンファレンスルーム	生命の誕生についての思いを表現、共有し母性観を深める	◆学生カンファレンス テーマ「生命について感じたこと考えたこと」 分娩に立ち会うことができた場合、生命の誕生について感じたこと考えたことを話し合う
16:15			

(4) 褥婦の看護実習

時間	場所	ねらい	学生の動き
8:30	清水病院 3階	産褥経過の理解と対象に合わせた具体的な看護	◆受けもち褥婦の情報収集と看護の実践 ・受けもち看護師又は看護教員と受けもち褥婦の観察

休憩		護実践の理解 子宮復古促進の援助 乳汁分泌促進の援助 育児不安への支援 退院後の生活支援につ ながる	(全身状態、子宮復古状態、乳房と乳汁分泌状態の 観察) ・子宮復古促進の援助を看護師または教員と実施 ・産褥体操のパンフレットを作成し、体操の指導と実 践を行う ・授乳の様子を見学し、看護師・看護教員と授乳介助 ・堤式マッサージ方法の指導の見学 ・沐浴指導の見学、退院指導の見学 ※受けもち褥婦の新生児の情報収集を行う ◆学生カンファレンス テーマ：当日決定する ・1日の実習の振り返り
15:00	カンファ レンスル		
16:15	ーム		

<受けもちについて>

- ① 3階に入院している女性（婦人科女性、妊・産・褥婦）を1名受けもち、看護を実践する
受けもちは、実習当日に決定する。
- ② 分娩は了承が得られた場合のみ、正常分娩もしくは帝王切開分娩に立ち会う。（分娩見学ができな
い場合もある）

<服装について>

清潔なユニフォームの着用 手洗い・含嗽を行い、マスクを着用する

手術室入室時のみ更衣する

手術当日は、手術室更衣室より術衣のみ病棟に持参する（緊急手術時も同様）

手術立会い前に、テープに名前を記載し術衣に貼付する



学生 清水看子

<記録について>

- ① 病棟実習記録は母性看護学実習記録ⅠⅡを記入する
※ 同じ対象者を2日以上受けもった場合は、母性看護学実習記録Ⅰを記入する
- ② 記録物は、個人の実習ファイルに綴じ込み、翌日実習開始前に3階病棟の所定の場所に置く

(5) 新生児室実習 (9時間×1日間)

時間	場所	ねらい	学生の動き
8:30	清水病院 3階	新生児の生理的变化の 理解 新生児に必要な育児技 術の理解 母乳哺育の確立の視点 で看護を考える	◆受けもち新生児の情報収集と看護の実践 ・申し送りに参加する ・担当看護師に挨拶し実習目標を発表する ・紙カルテもしくは電子カルテを使って受けもち新生 児の出生後の経過を情報収集する ・受けもち新生児のバイタルサイン、全身状態の観察、 黄疸チェック、体重測定、哺乳量と時間を確認する ・出生経過の生理的变化をアセスメントする ・新生児の検査、診察、処置の見学 ・観察したことから沐浴が可能であるかアセスメント し、観察した結果をふまえて看護師に報告する ・看護師が行う沐浴を見学、集団沐浴指導の見学 ・受けもち新生児の沐浴の実施 ・受けもち新生児の沐浴中、後の観察をし、報告する ・授乳の介助、ミルクの補充、抱き方、あやし方、

15:00 16:15	カンファレンスルーム	出生直後の児の看護の理解	K2 シロップの投与 ・ アプガースコア、原始反射の観察 ・ 出産があった時には、出生直後の処置を見学する ・ 出生直後の児の取り扱い、観察、計測 ◆学生カンファレンス テーマ「新生児の看護について」 ・ 1日の実習の振り返り
----------------	------------	--------------	---

<受けもちについて>

新生児を1名受けもち（※受けもち褥婦がいれば、褥婦の新生児を受けもち）清拭か沐浴を実施する

<服装について>

清潔なユニフォームの着用

<感染予防について>

手洗いを徹底する・含嗽を行い、マスクを着用する

風邪症状がある場合は、新生児室実習は行わず、他の実習場所に変更する

<記録について>

① 新生児室実習記録は母性看護学実習記録Ⅱを記入する

※ 受け持ち対象だった母親の児を受け持てた場合、母性看護学実習記録Ⅰも記入する

② 記録物は、個人の実習ファイルに綴じ込み、翌日実習開始前に3階病棟の所定の場所に置く

(6) 病院実習6日目 最終日（まとめ1時間を時間内に含む）

時間	場所	ねらい	学生の動き
8:30	清水病院 3階		◆ローテーションに沿って各場所で1日実習
15:00 ～ 16:00	カンファレンスルーム	母性看護学実習における学びを深め、母性観を深める 母性の対象への援助を通して自己の学びの整理	◆最終カンファレンス ・ 母性看護学実習での学びと意見交換 ・ 日々の実習体験を通し考えた、母性看護における倫理（生命の誕生・命を育てることの意味、生命の尊厳、母性観）などを表現する ・ 指導者より助言を受ける
16:15			

3 助産所実習（9時間×1日間）

時間	場所	ねらい	学生の動き
8:30	助産所	助産所を訪れる対象と関わり、安全で快適な妊娠・出産・育児を理解する 地域における助産所の役割について理解する	◆助産所の日程に応じ、助産師の指導のもと実習する ・ 妊婦健診や新生児訪問の見学、子育てサロンの参加 ・ 助産師の対象への関わりを見学 ・ 今までの学びや体験をもとに、できるところは助産師と一緒にいき、妊婦・褥婦・新生児と関わる ・ 助産所が果たす、地域における役割について考え、助産所実習記録に表現する ◆助産所で体験したことは、後日情報共有する
16:15			

<服装について>

白またはグレーのポロシャツ、黒またはグレーのパンツスタイルで活動しやすい服装

常時サロンエプロンを着用し、小児で作成した手作り名札をつける

髪は束ねる（おだんごでなくて可）

家庭訪問に同行することもあり、靴は運動靴が望ましい

<持ち物>

スリッパ・サロンエプロン・事前学習資料・テキスト・昼食（ごみは持ち帰る）・水筒

<記録について>

- ① 母性看護学実習記録Ⅳを記入する
- ② 記録物は、個人の実習ファイルに綴じ込み、翌日実習開始前に3階病棟の所定の場所に置く

4 女性会館実習 (9時間×1日間)

時間	場所	ねらい	学生の動き
8:30	女性会館	地域における女性会館の役割について考える	◆施設職員に挨拶する ◆館長もしくは施設職員より以下の説明を受ける (施設の概要と特性、職員の概要、利用者の状況、男女共同参画推進事業の紹介、電話相談、多職種連携) ◆館内見学 ◆講座参加 ◆施設職員指導のもとワークと学びの共有 ◆女性会館が果たす地域における役割について考え、実習記録Ⅴに表現する
16:15			

<服装について>

白またはグレーのポロシャツ、黒またはグレーのパンツスタイルで活動しやすい服装
髪は束ねる

<持ち物>

事前学習資料・テキスト・水筒・昼食（ごみは持ち帰る）

<記録について>

- ① 母性看護学実習記録Ⅴを記入する
- ② 記録物は、個人の実習ファイルに綴じ込み、最終記録とともに提出する。

<p><最終レポートについて> 10日目終了後記載する 女性が地域で安心して暮らしていくための「母性看護の役割」について表現する 原稿用紙3枚から4枚におさめる ※ 各実習場所での日々の体験と母性看護における倫理を踏まえて記載すること</p>

VII 実習記録

記録類は、以下の順にそろえて提出する

- 1 母性看護学実習評価表
- 2 最終レポート「母性看護の役割」
- 3 母性看護学実習記録Ⅰ (受け持ち情報用紙)
- 4 母性看護学実習記録Ⅱ (1日の実習計画表)
- 5 母性看護学実習記録Ⅲ (病院・診療所の外来)
- 6 母性看護学実習記録Ⅳ (助産所)
- 7 母性看護学実習記録Ⅴ (女性会館)
- 8 指導パンフレットのコピー

VII 実習計画表

	実習 1 日目	実習 2 日目	実習 3 日目	実習 4 日目
実 習 内 容	病院実習① オリエンテーション (病院・外部)	病院実習② 女性生殖器に疾患を抱えた 女性もしくは妊産褥婦を継 続して受けもち看護を实践 する	病院実習③	病院実習④ →
記 録	母性看護学実習記録 I II	母性看護学実習記録 I II	母性看護学実習記録 I II	母性看護学実習記録 I II
C F	15:00～ 「オリエンテーションを通し て、感じたこと考えたこと」	15:00～ 本日の学び	15:00～ カンファレンス (テーマは当日決定)	15:00～ カンファレンス (テーマは当日決定)
	実習 5 日目	実習 6 日目	実習 7 日目	実習 8 日目
実 習 内 容	病院実習⑤ →	病院実習⑥ 新生児室実習 受けもち褥婦の新生児を受 けもち、看護を实践する	病院実習⑦ 助産師外来実習 午前：助産師外来 午後：助産師相談室 母親学級 外来見学 妊婦か褥婦を受け持ち、必 要な指導を实践する	外部実習① (診療所) 診療所外来実習 午前：産婦人科外来 午後：アロハ外来、教室 外来見学 女性を一人受け持ち、診療 の間同行する。
記 録	母性看護学実習記録 I II	母性看護学実習記録 I II	母性看護学実習記録 III	母性看護学実習記録 III
C F	15:00～ 「新生児室の看護」	15:00～ カンファレンス (テーマは当日決定)	15:00～ 病院最終カンファレンス 「母性看護学実習の学び」	15:00～ (施設と調整) 本日の学び
	実習 9 日目	実習 10 日目		
実 習 内 容	外部実習② (助産所) 助産所実習	外部実習③ (地域女性) 女性会館実習		
記 録	母性看護学実習記録 IV	母性看護学実習記録 V		
C F	15:00～ (施設と調整) 本日の学び	ワークと発表		

学習活動	具体的な評価基準	観点	評価資料	評価基準			
				すばらしい	よい	もう少し	今一步努力を要する
母性看護の対象について理解する	対象者の身体・心理・社会的な健康状態を表現している	対象理解 探求心 調整力	受け持ち情報用紙 1日の実習計画表 外部実習記録 面接 ミーティングの発言	対象者の健康状態を基礎的知識と関連させ、系統的に解釈している。 20	対象者の健康状態を知るために、指導者の助言を受けて、必要な情報を収集し解釈している。 15	対象者の健康状態を知るために、指導者と一緒に情報を収集し、解釈している。 10	対象者の健康状態を知るために得た情報を表現している。 5
母性看護の対象者に必要な看護援助を実践する	対象者に必要な看護を根拠に基づいて実践する	対象理解 実践力 倫理観	受け持ち情報用紙 1日の実習計画表 外来・外部実習記録 実習状況	対象者の健康に向けたねがいを表現し、対象者の経過や状態に合わせ、安全・安楽・自律に留意した看護援助を根拠に基づいて実践している。 25	対象者の状態に合わせた必要な看護援助を、根拠を明確にし、実践している。 15	気づきを視点に、対象者に必要な看護援助を実践している。 10	看護師が行う看護援助を、指導者と一緒に実践している。 5
看護専門職者としての倫理観をもつ	生命の尊厳について自己の考えをもち、対象者の考えを尊重して関わる	調整力 倫理観	受け持ち情報用紙 1日の実習計画表 外部実習記録 面接 ミーティングの発言	対象者の価値観、生活習慣、慣習、信条等を尊重して関わり、生命倫理について自己の考えを表現している。 20	対象者の思いや意向に合わせた関わりをしており、生命の誕生に対する自己の考えを表現している。 15	対象者の思いや意向を尊重するために必要な関わり方について表現している。 10	対象者の思いや意向について情報収集している。 5
母性看護の役割を理解する	女性が地域で安心して暮らしていくための、母性看護の役割を表現している	探求心 倫理観	最終レポート 実習状況 面接 ミーティングの発言	日々の様々な体験をもとに、地域における切れ目のない多職種連携について自己の考えをもち、母性看護の役割を表現している。 20	実習体験をもとに、母性看護の役割を表現している。 15	日々の実習体験を振り返り、得たことを表現している。 10	自己の体験を表現している。 5
看護の対象や仲間の尊厳、安全を護り、医療者として誠実に行動する	医療者として常に看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動がとれている。	倫理観	日常の行動 実習の様子 課題等提出物 出席状況 面接	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護るために適切な行動をとり、仲間の模範となりチームをけん引している。 15	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動を心がけている。至らない時は学び、行動を変えている。 10	看護の対象や仲間の尊厳、安全を護るという視点で自己の行動を振り返っている。 3	自分の行動が看護の対象や仲間を危険に曝している。 0

実習指導者助言

欠課時間数
() 時間 / 90 時間

	学生	指導者
中間評価	点	点
総合評価	点	点

実習指導者サイン

担当教員サイン